常磐每日新聞

定價 一部金貳錢 一ケ月金四十錢 郵税五厘
廣告料 五號十二字詰一行 五十錢
休刊 日曜大祭日 祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長橋町三五 發行所 常磐每日新聞社 電話六三〇番

日刊
發行兼編輯人 印刷人 川崎文治
本社ト同番地(電話六三〇番) 印刷所 常磐每日印刷所

九月十四日夕刊

常磐論壇

滿蒙經營の基調（八）

山本粂太郎

然るに現に我國の需要する硫安は約五十萬噸で僅かに其の半額を國內にて製造し半額三千萬圓は之れを外國の供給を仰ぎつゝある狀況であるが硫安の需要は今後十年を出でずして百萬噸にも達すべき趨勢にあるから誠に心細く感ずるのであります、內地にても水力電氣の發達に伴ひ各所に計畫がありますが、迚も需要の增加に追付くことが出來ないので滿洲に於ても之を補充する考へを以てコークス爐の瓦斯を利用して取敢へず年產七萬噸計畫を樹てたのでありますから、製鐵事業が今後少しく發達し又當然發達するものとすれば今日本に輸入し得る二十五萬噸は滿洲だけで製造することが出來るのであります。殖民地殊に朝鮮は接續地域でもあり夫れを以て最も便宜とするのでありまして、滿鐵としては支那本土にも供給するの望が十分ありますので當然着手すべき事業と認めて居るのであります。次に曹達工事曹達灰の工場を設置する計畫を進めて居ります之は未だ當局に十分諒解を得て居りませぬが勿論歡迎されるものと信じて居ります。

スター好ナフトール 着尺
ナフトール賞用向フトン地
秋物入荷
平町 龜田屋 電五七

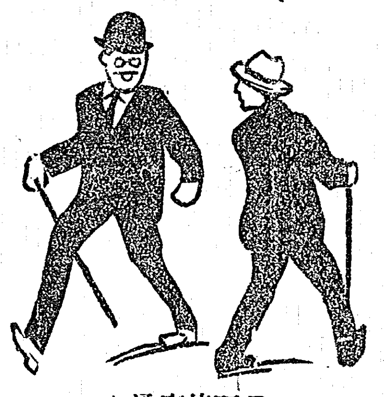
鳥肉 謝恩大賣出し
上肉 壹百匁 七十錢
並肉 仝 六十錢
右價格にて新鮮優良なるものを差上ます
賣出し期間 九月十四日より十八日まで 五日間
市內は遠近に不拘迅速に配達をいたします
平町南町三六(釜屋裏) 鳥菊 電話七五三番

十四日より上映
◇帝キネアシヤ作品 現代大悲劇 燒野のきぎす 歌川八重子 杉村チエ子主演
マキノ特作講談倶樂部連載 悲壯探偵大活劇 紅手袋 環歌子 津村博 瀨川鶴子主演
大帝キネ超特作 名優尾上紋十郎大努力熱演 時代仁俠劇 夕立勘五郎 特別出演 嵐璃德、久野あかね助演
◇マキノ御室超特作 時代喜劇 伊達男 中根、小文治、小金井主演
近日上映 帝キネ マキノ 大久保彥左衞門
有聲座

看護婦派出の求めに應ず
平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

外科 專門 光線科 ×
入院應需 上田外科醫院
平町南町 電話一二九番

君は、いゝ型の洋服を求めたねい 誂かへ？
いや君コレは例の「ソレ」正札堂さ



平町停車通り 正札堂

外科 婦人科 內科 × 光線科
外科一般 耳鼻科 花柳科 產科 婦人科
赤心堂病院 平町字田町 (電話四七五番)

極上中學服入荷
一年生位 四圓五十錢
二年生位 四圓八十錢
三年生位 五圓十錢
平二 なかや洋服店 電二〇三

◇御期待の名編遂大公開◇
つばさ
大空中戰 血淚悲壯
賜御天台覽榮 各國皇帝元首 各宮殿下
◇パラマウント社本年度超特作映畫
◇主演者 クララボウ嬢 チャールスロヂャース氏
陸軍省 海軍省 文部省……推賞激讚
全編悉く熱と力をもつて貫かれ血と淚をもつて彩らるゝ一大文字是を見ずして何人か遂に映畫を語るを許されん……
一死國難に殉ずる熱血男兒、戀をいけにへに奮闘する美少女、戰禍を地上より拂はんとする偉大……精神脈々たる大傑作……巨史
◇報知新聞連載……吉川英治原作
第三回 江戶三國志
全國協定打破……入場料 特に普通
十三日より 土日曜學生デー
高級常設 平館 電四六六

原齒科醫院
平町土橋通り 電話三一二番

優秀なる 最新型腕卷時計

◇クローム側白金代用側◇

十型十石入アンクル	7・50錢
九型石入上アンクル	11・00圓
仝15十石入上アンクル	9・50錢
仝15石入上アンクル	13・40圓
八型15石入アンクル	12・00圓
仝15石入上アンクル	15・00圓

◇十八金側 金質保證◇

十型十石入上アンクル	12・50圓
仝十五石入上アンクル	18・50錢
九型15石入上アンクル	15・00圓
八型15石入上アンクル	17・00圓

五丁目釜屋商店前
鐵道省御用
金光堂時計店
(電話七三六番)

農作の喜びに……

泰平を謳歌する農家

大厄日前後の天候申分なく
凶作の悲觀何處へやら

二百十日も二百二十日も至つて無事に經過したばかりか遅れ勝ちであつた稲草の發育に必要な殘暑は恰ら盛夏を凌ぐ温度を持續するは勿論開花後の成熟においても頗る

良好の 成績をあげつゝあるので縣下を通じ最早平年作以上の見當がついたやうである土用中の不天候は近年稀に見るところであつたのみかその後も險惡なる空合が續き農作に最も不吉なる北東の風さへ吹き渡つたので農家の一般は凶作來の

豫感に 打たれていはゆる生色なしと言つた形であつた然るに大厄日の前後より天候が次第に恢復し殆ど絶望の淵に沈んだやうな農村の氣分を日一日と元氣づけ今や全く豊年萬作とまで謳歌せしめるやうになつたことは農作上から見ると正に奇蹟に類するものといふも

過言で はない郡内を通じて水田の穰々たる有様は秋日和の續くに從つてますます景氣づくであらうから秩父宮殿下の御成婚續いて即位の大禮とお目出度づくめのこの秋は天祐に惠まれたる民草の如何に[illegible]して奉祝の赤誠を致すやう想像するだに心躍るが如き泰平の御代ではあると壽き合ふ聲が高い

石城青年
體育大會期日
廿三日に變更

石城郡聯合青年團體育大會は十六日磐中校庭にて開催すべき筈既記の如くであるが都合に依つて廿三日に期日を變更したと

川部青年が
小川踊創定
農村娛樂に

石城郡川部村青年團小川分團では俗謠を改善し念佛踊として眞の農村の娛樂たらしめやうとし團員戸田清太郎、小野佐一、田子仁郎、澤田武一の四氏發起となり數次協議の結果健全なる俗謠六十句を選び新に小川踊なるものを創め去る舊盆に際しては酒食の饗應を受けざる事として新盆の家々を團員三十餘名擧つて供養の爲め踊廻り大いに人氣を博したので爾來夜祭り等の際には團員洩なく出てこの新名物小川踊を爲し夜の情緒を深めてゐるが選まれた俗謠六十首の中、村に因めるもの左の數首がある

△清い流れの四時のほとり わしが心も清くすむ
△小川なれども四時の川は 鮎と流で名が高い
△四時川さへ竿さしやとゞく なせにとゞかぬ妾が胸
△ほかに名所は數々あれど 鮎で名高い四時川
△嫁にやるなら小川にやりな 小川「きすい」の酒の水
△地獄佛も安心めされ 極樂淨土の淨圓寺

平驛から隅田川驛迄
秋刀魚の速達列車を
東海道方面への早着を期す
貨車内に冷却用氷柱

秋刀魚漁は本年試驗場の觀測も多漁の見込なので平驛から隅田川驛までの速達列車を指定し東海道線方面への早着を期すことになつたが最近秋刀魚の販路が遠く鹿島、呉、尾ノ道、岡山方面や中央線東北本線、高崎兩毛信越方面にまで擴まつて來たので當局として出來得る限りの鮮魚商の便宜を圖り貨車内にも冷却用氷柱を無檢で入れさせ樣といふ計畫もある

女中が拂底
平の職業紹介所

平町の職業紹介所は大正十三年開所以來年と共に紹介事務の繁多を加へ最近では四家主任以下三名の專任係員がこれに從事しつゝある程で從つてその成績漸次見るべきものがある同所最近の狀態を見るに例年夏季中は求人求職の需給調節の時期で双方共その超過に苦しむが如き事なく目下の求職者としては

自動車運轉助手一、農具鍛冶二、機械工二、事務員三

等僅に十名足らずなるに反し却て求人方面は去月一日以降女中炊婦子守等十數名の申出中僅に二名の紹介をなし得たるに止まり現在雇入希望十二名を算するも適當なる求職者なき有樣で婦女子拂底の傾向は依然として甚だしく常に多數の求職超過を示しつゝある

火葬場工費
八千圓で入札

平町火葬場設置委員會は十三日午前九時から町役場に開會建築費その他を附議決定したが工費は約八千圓で近く入札に附すると

好間の音樂會

石城郡好間村女子青年團主催音樂會明十五日午後七時より同村第一小學校に於て開催されると

藤原に演武場

石城郡磐崎村藤原炭礦にては青年坑夫等の爲めに間口四間奥行六間の演武場を建設する事となり十三日より着工したと

河北記者榮轉

河北新報平支局記者吉田久氏は今回宮城縣古川支局長に榮轉し來る二十日頃赴任する筈であるが氏は青年に似ず實直記者としては珍しい眞面目な人物で在平青年記者中に於いても活動家として知れ且つ一般からの氣受けもよかつたので今回の赴任は常に惜まれてゐる

江名中の作
漁港大修築
豫算十六萬圓

石城郡江名町中ノ作漁港修築問題は多年の懸案だが最近港内が淺くなり大型漁船の出入に困難となつたので今回村民一致し大修築をなすことゝなり近く着工するが大體豫算は十六萬圓で町村土木補助規則に基き七分以内の補助を得たいと十二日鈴木縣議外數名出縣陳情した

平町人事

△出生

△鷹匠町一五 益弘益氏二女幸子

△立町五七 當時東京府南葛飾郡吾嬬町 小野寺松雄氏二女トキ子

△一丁目二一 當時石城郡高久村大字高久園部國安長男武久

△婚姻

△五丁目二 無職平松茂氏（三三）石城郡上遠野字本町 小澤卓子（二四）

△紺屋町七 會社員平山清兵衛氏（三五）千葉縣天津町小島つれ（二八）

△死亡

△古鍛冶町一八 志村モト（七二）

荒至重翁に贈位の請願

その理由書 ――一――

御大典を機とし全國の隠れたる偉人傑士に對し相當贈位の御沙汰あるべき筈であるが元平町々長故荒至重翁は地方啓發の爲め終始獻身的に盡碎した功績が顯著である處から翁の直孫に當る平町會議員佐々木龍若氏は左記請願理由書其他の書類を纏め此の程内大臣並びに内務大臣へ宛て請願書を提出した

故荒至重は舊相馬藩荒喜左衛門最重の長子なり幼にして父を喪ひ家貧にして母の教養を受け年少にして相馬藩勘定方に出仕す後藩より選まれて藩の和算家佐藤儀右衛門に

師事す 至重十五才のときなり藩の子弟にして以前に入門したる者未だ學理の一端を窺知するに至らずして先づ數理の至難なるに堪へず中途廢學するを以て例となす至重年少なりと雖も藩命を重じ學理の蘊奥を究めざれば止まずとなし其母の教訓に從ひ齊戒沐浴して藩の守神妙見神社に詣て祈願

宣誓を なし以て入門師事す日夜學究に沒頭して他を顧みず爲めに年餘に及ばずして以て一般和算の奥義に通ずるを得たり且師は至重の非凡なる天才に驚歎し學は既に教ふべきなし更に進で學ばんとせば遠く江戸に遊學して大家に就くに加かずと後又藩命に依り江戸に

遊學す 二三の數學家を歴訪するに其多くは淺薄の學を以て至重の師となすに足らず漸くにして當時數學天文及蘭學の大家觀齊内田彌太郎を師となし入熟す至重廿一才の時なり專ら學を修めて三年遂に全般の算術及測量天文の學理を究むるを得たり爲めに師は學既に

奥儀に 達す之れを實地に活用して以て經驗を重ねるを勵め記念として掛軸一幅を與ふ蓋し師は至重の天禀に服し師弟の誼常ならざるものあればなり至重歸藩幾何ならずして藩より拔擢せられて遠く野州日光今市に赴き二宮金次郎（尊徳）先生の家に寄寓し

其學に 就く時に嘉永三年戊年至重廿六才の時なり後五年餘にして二宮主義の一般を知得し藩に歸る是れより先に先生に入門せしは富田高慶にして至重は第二の弟子志賀直道は第三の弟子なり後選ばれて代官となり鹿島村北郷の陣屋に赴く實に安政四巳年六月至重三十二才の時なり

其職を 行ふや恪勤にして精勵公平にして剛直而も常に救世濟民を以て念となし自ら二宮主義を躬行して其範を示す爲めに配下の民人風俗頓に革まり治績見るべきものあり官暇に『量地三略』『測量即計』等を著述し江戸に於て出版し當時盛に世に行はる

何れも 舊師内田觀齊の序文あり

募集
文藝其他投稿を募集します